

# 各地の被害

各地の被害状況を記した文献は少ないのですが、被害は上伊那から下伊那南部にまで広範囲に及びました。洪水に加え、土石流の被害も多く、死者・家屋流失・堤防破損など多くの被害が記録され、木曽川流域でも神社や町の被害が記録されています。

## <未の満水に関する資料>

飯田世代記	飯田町小史	市田村報
山吹藩史料	北沢曾右衛門筆記	安養寺過去帳
座光寺為勝水害記	本郷村水損夫食拝借願	御年貢米納通
毛賀村庄屋木下勘左衛門手記	野底山史	市田郷明細帳
永代万覚日記（森本甚三郎）	川路（村）水防史	御年貢米納通
山村永流御引高写帳	南山12ヶ村史料	水損二付而〇留書
山村末ノ永流帳	松尾村小史	千村平右衛門幕府報告
赤須・上穂旧記録鈔	信州伊那郡郷村鑑	（上赤須村）殿村文書
天竜川洪水年表	上片桐屋文書	（南下平村）村澤資料
役用古記録抄帳	近世郷土年表	座光寺村年表
北方村旧記	高遠世乗 六	信山緑化情報
島田年代記	伊那里社史	

## ① 上伊那

- <上赤須村>（現駒ヶ根市）
  - 農地被害：2町1反歩余
  - 家屋流失：1軒
  - 用水被害：数か所（殿村文書より）
- <南下平>（現駒ヶ根市）
  - 農地被害：3反8畝余
  - 家：2件なぎ引押埋
  - 死者：5人（男2人、女3人）
  - 馬：1頭（村澤資料より）
- 安楽寺流失（赤須・上穂旧記録鈔より）
- <高遠藩>
  - 川々満水-橋36ヶ所、民家23軒流失
  - 『高遠町誌（高遠世乗）』より
  - 天竜川及び三峰川満水となる
  - 『宮田村誌（上穂赤須旧記録鈔）』より

## ② 飯島町付近

- ◆全耕地面積の約65%が被害を受けた。
- 『天竜川・菊川 川の流れと歴史のあゆみ』より

## ③ 高森町付近

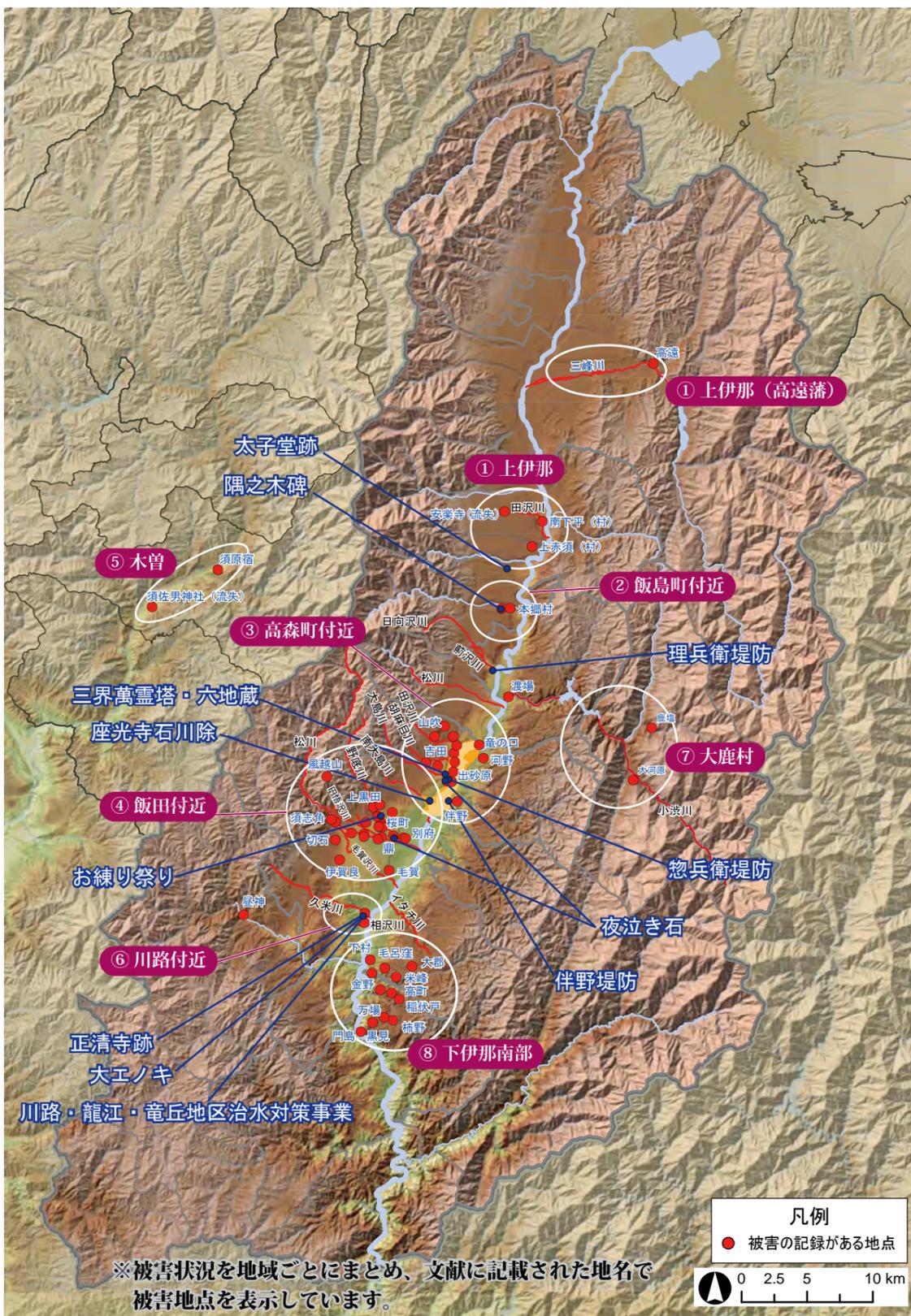
- ◆降り続いた雨は6月18日の早朝よりたらいをぶちまけたような豪雨となった。このため、大島山不動滝上流のかぎかけで山が大きく崩れ、大島川をせき止めてしまった。水はたちまちダムとなり、やがて、もちこたえられなくなると一気に壊れ大土石流をひきおこした。堂所から太白・日影・出砂原へとただれ下って巨石が折重なった。先端は天竜川へ押し出し、濁流をたたえた天竜川も堰き止めてしまった。天竜の濁流は4km上流の竜ノ口までさかもどりをしたため、出砂原より台城までが諏訪の海ようになってしまった。
- 『高森町史（山吹藩史料）』より

## ④ 飯田付近

- 田畑高：7817石、永流当流水押共、内986石7斗6升1合8勺 永流
- 流家、水押、半潰家：118軒 内 56軒流家
- 死者：32人（男21、女11）
- 堤防破損：2580間
- 落橋：9箇所
- 井関押切：48箇所
- 道崩：52箇所
- 材木流失：150本（5尺～4尺5寸）小木材 本数知れず
- 『飯田世代記』より
- ◆円悟沢山抜け、伊賀良井口大石を押し出す。須志角家屋18軒押し流される。
- 『伊那谷の災害と凶作（北方村旧記）』より
- ◆野底川松川その他支流の川々一時に氾濫。また源長川も満水となり竜翔寺の高緑の上まで浸水。洪水退流後、竜翔寺境内の土地墓所と共に半分を崩壊。
- 『伊那谷の災害と凶作（伊那里社史）』より

## ⑤ 木曽

- ◆暴風雨、山崩のため野尻村の須佐男神社を潰す。木曽川も洪水し、須原宿古町が流れた。
- 『伊那谷の災害と凶作（上伊那郡史）』より



※被害状況を地域ごとにまとめ、文献に記載された地名で被害地点を表示しています。

## ⑦ 大鹿村

- ◆小渋川は用材2003本を流失、大河原・鹿塩両山木場にあった材木は、山崩れ、出水で埋没または流散。
- 『大鹿村誌（千村平右衛門幕府報告）』より

## ⑧ 下伊那南部

- 南山36か村のうち、大郡、柿野、黒見、米峯、金野、万場、門島、高町、田ノ口、毛呂窪、稲伏戸、下村の12か村で被害。
- 3町9反5畝歩程本田分山落砂入。
- 16町5畝歩程、同断水押流。
- ◆南山12か村で20町歩に及ぶ本田分の大災害。
- 『長野県上伊那誌（南山12ヶ村史料）』より

## ⑥ 川路付近

- 田畑総高33町1反16歩、永流当流水押併せて此石高241石余
- 流失の家屋、半潰ともに7軒
- 河除 374間流失
- 落橋3か所
- 道筋5か所
- ◆白井川、久米川、留女沢其他村中の河川一時に出水荒れ始め、堤切込田畑家屋に切込み大騒となる。
- ◆天竜の奥筋にも人家の被害があったようで、家屋酒屋の大桶、家財等が流れ出てきた。
- ◆この時今田鑑（いたち）ヶ沢が崩壊した響は富士の焼けた時の音より大きい程に聞えた。
- 『伊那谷の災害と凶作（川路村水防史）』より